

## 岩手県金融経済概況

### 1. 概況

県内経済は、足踏み状態が続いている。

すなわち、生産面では、IT関連分野において、一部に先行きの受注回復を期待する先もあるものの、足もとにおいてはなお在庫調整が続いていること等から、概ね横這い圏内で推移している。個人消費は、所得環境に捗々しい改善がみられない中、大型小売店の売上等を中心にやや弱めの動きが続いている。また、建設関連では、住宅投資が横這い圏内で推移する一方、公共投資の減少傾向が続くなど、低調に推移している。

この間、観光面では、大河ドラマ「義経」放映効果の浸透等から、平泉周辺の関連施設の入込み客が増加するなどの好影響が見られている。

### 2. 最終需要

#### (1) 個人消費

個人消費は、家電販売に一部持ち直しの動きもみられるが、大型小売店では主力の衣料品等を中心に売上げの低迷が続くなど、全体としてみればやや弱めの動きとなっている。

#### (大型小売店売上高)

百貨店・量販店の売上げは、ウェイトの高いファミリー層の消費抑制姿勢が続く中、気温が低めに推移したことによる主力の春物衣料品の落ち込み等から、全体として低調な地合いが続いている。

#### (家電量販店売上高)

家電量販店の売上げは、パソコンが低調に推移しているものの、デジタル家電（薄型テレビ、DVDレコーダー）の販売好調から、全体としては緩やかな持ち直しの動きが続いている。

#### (乗用車新車登録台数)

乗用車新車登録台数は、これまで全体を押し上げてきたウェイトの高い小型車の新車投入効果が一服したこと等から、前年を下回っている。

(旅行取扱高)

旅行取扱高は、海外旅行がアジア向け中心に持ち直しの傾向にあるものの、国内旅行については、基調としてはなお弱めで推移している。

この間、ゴールデンウィーク期間中の県内観光関連施設の予約状況をみると、今年は曜日構成に恵まれたほか、大河ドラマ「義経」放映効果の浸透等から平泉地区を中心に団体客が増加し、周辺の温泉旅館では宿泊数が前年を大幅に上回るなどの動きが見られる。

(2) 住宅投資

新設住宅着工戸数は、分譲の集中等による振れを均してみれば、基調的には横這い圏内で推移している。

(3) 公共投資

公共工事請負金額をみると、予算規模の縮小を背景として減少傾向が続いている。

3. 生産動向

生産面では、輸送用機械、設備関連等で高水準の生産を継続している一方、電気機械では IT 関連分野の在庫調整が継続しているほか、建設関連では低水準の生産が続いていることなど、全体としては概ね横這い圏内で推移している。

(電気機械)

半導体・電子部品は、IT 関連分野の在庫調整がなお続いており、先行きについては一部に受注の回復を期待する先もあるものの、足もとの動きとしては横這い圏内の動きが続いている。

(輸送用機械)

完成車は、北米向け高級車の輸出に加え国内向け新型車種も好調であることから、高水準の生産が続いている。自動車部品でも海外需要が好調であることから、高操業を続けている。

(設備関連)

工作機械では、自動車部品メーカー向けを中心に豊富な受注残を抱え、新規受注も好調に推移していることから、フル操業を続けている。

(消費関連業種<紙・パ、精密機械>)

紙・パ(段ボール原紙)は、菓子類や飲料品向け需要の好調から、基調としては堅調に推移している。精密機械(時計部品)は、輸出市場における海外メーカーとの競合から、やや抑制する傾向にある。

(建設関連)

線材が、国内自動車メーカー向け出荷の好調から高水準の生産を継続しているが、合板、セメントやコンクリート二次製品など多くの品目では、公共投資の減少等を背景として、生産能力をかなり下回る低水準の生産が続いている。

#### 4. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、有効求人倍率(季節調整後)は小幅ながら低下しており、基調としては、一進一退の横這い状態が続いている。

一方、所得面をみると、企業は引き続き人件費の抑制に取り組んでいるほか、このところ所定外給与が製造業の生産調整等を反映して減少していることもあって、全体として捗々しい改善をみていない。

#### 5. 企業倒産

企業倒産をみると、落ち着いた動きが続いている。

#### 6. 金融動向

預金は、個人預金が堅調に推移していることから、全体として底固い動きを続けている。この間、ペイオフ全面解禁後の預金者の動きは落ち着いたものとなっている。

貸出は、個人向けが住宅ローンを中心に堅調に推移しているが、法人向けが引き続き低迷していることから、全体では前年を下回って推移している。

以上